

「地域防災力向上支援プログラム」第2回県北地区研修会

と き：平成27年10月15日（木）

と ころ：福島県青少年会館

今後の災害に備え、地域の防災拠点である公民館等社会教育施設における防災体制の整備・充実を図るため、市町村社会教育関係職員、社会教育団体関係者、地域防災に関心のある町内会・婦人会関係者等を対象に第2回県北地区研修会を実施いたしました。

1 講 義

「地域で取り組む、楽しく学ぶ防災」

NPO 法人プラスアーツ理事長

永田 宏和 氏



防災教育は日本の文化、また防災プログラムは神戸で生まれたものであり、実施する場合はその土地に合った形に変えて行うことが大切。また、地震発生時にパニックにならないようにするため「防災の日常化」が大切なこと、そして地域内での人間関係、特に交流がないと災害時には生かされないこと等、多くのことを教えていただきました。



受講者の感想

- 子どもから大人まで楽しく学ぶことができる防災知識は大変参考になりました。学校のカリキュラムに入れてやればよいのではと思いました。
- 非常に具体的で楽しく多くの知識を得ました。説明も丁寧で分かりやすく、あとは実行のみと思いました。
- 今後の防災訓練の内容について「プラス・クリエイティブ」（既存のものを壊す）で考えていきたいです。

2 演 習

「避難所シミュレーション教材『さすけなぶる』による演習」

福島大学ふくしま未来学推進事務局

地域コーディネーター 北村 育美 氏



シミュレーション教材の「さすけなぶる」はビックパレット福島避難所がモデルとして作成されたものであり、本時は具体的な状況（震災から3週間後、避難者にストレスが見られる、カップラーメンへの対応）について、まず個人で考え、その後グループでの話し合いを行いました。避難所では、互いに交流し、耳を傾け合って、実態・課題の把握、状況改善をしていくことが大切なことを学びました。



受講者の感想

- 日頃から避難所で起こりえることをシミュレーションし、その人にあった「公正」の考え方で支援していくことの大切さを学びました。
- 実際に即したシミュレーションで良かったです。もっともっと時間をかけて学べれば、と思いました。
- カップラーメンの例は端的なことで良かったです。考え方はそれぞれ異なりますね。